



成隣だより

令和5年4月6日
第1号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘
TEL 042-541-0068



HPはこちら



新しい1年のスタート

校長 松川 靖弘

進級ならびに入学ともにおめでとうございます。
本校校長として2年目の勤務となりました。

今年は、創立150周年の節目の年を迎えます。
先輩方と地域保護者の皆様が積み上げ、育てて
きた歴史を振り返り、これからの地域と学校に
ついて考える年にしたいと思います。

【令和5年度 児童数】 4月6日現在

1年	46名	2学級	男子	27名	女子	19名
2年	47名	2学級	男子	25名	女子	22名
3年	54名	2学級	男子	25名	女子	29名
4年	61名	2学級	男子	38名	女子	23名
5年	64名	2学級	男子	29名	女子	35名
6年	68名	2学級	男子	31名	女子	37名
合計	340名	12学級	男子	175名	女子	165名

入学・進級
おめでとう



周年記念キャラクター
「ししはる」

『人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小』

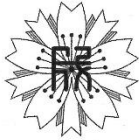
【教育目標】

〇すすんで学ぶ子(知) 〇心豊かな子(徳) 〇たくましい子(体)

12学級 340名の児童が、人も自分も大切にしながら、生き生きと学び、安心して生活でき、
みんなが輝く学校を目指します。そして、この取組を通して、本校の教育目標の実現を図ります。
教職員一同、力を合わせて教育活動に全力を尽くしてまいります。

『学校経営方針』 節目の年、再考と再出発の1年

令和5年度の学校経営方針につきましては、次項をご覧ください。緊急事態宣言が出されコロナ禍と
よばれて3年が経ちました。5月には「新型コロナウイルス感染症」5類への移行後の生活が始まりま
す。コロナ前の学校生活を知る児童が半数、今の学校生活が普通の児童が半数という状況での再出
発です。本校の教育活動を再考し、無理なく緩やかに再出発したいと考えております。保護者の皆様
にご理解とご協力を求めることもあるかと思いますがよろしくお願いいたします。



令和5年度昭島市立成隣小学校学校経営方針

【目指す学校像】

人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小

創立150周年 再考と再出発の1年

今年度は、創立150周年を迎える節目の年。そして、緊急事態宣言が出されコロナ禍とよばれて3年が経つ5月には、「新型コロナウイルス感染症」5類への移行後の生活が始まります。

これらを受け、本校の教育活動を再考し、無理なく緩やかに再出発する1年間といたします。

【 基本理念 】

- 1 児童が互いを認め合い協力し合う教育活動、児童一人一人の個性・特性の伸長を図る教育活動を充実させます。
- 2 生涯学び続けるための基礎を確実に身に付けさせる教育活動の条件整備を進めます。
- 3 「地域の学校」という公立学校のよさを生かします。
- 4 教職員は、自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させます。

教育目標		経営目標	◎中期的な目標 ・取組	○今年度の重点的な取組
○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	児童	学力・体力の向上	◎主体的に学習に取り組む児童を育成する。 ◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童を育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識・技能を習得させる。 ・児童一人一人に注目し成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	○児童の学習に対する目的意識を大切にし、自身の学びを実感できる授業を実施する。 ○「昭島市立小学校ユニバーサルデザイン」を活用した日常活動や授業における指導・支援を進める。 ○日常的な運動を通して体力を向上させる。 ○健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。
		豊かな心の育成	◎互いを認め、協力し合う児童を育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切に活動した活動を重視する。	○児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。 ○道徳科の授業を要とし、特別活動や学校行事の再考・再興をととして児童の人間力を育成する。 ○児童が個々のよさを発揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。
	教職員	能力開発と資質向上	◎教職員がライフワークバランスを考えながら、知見を広げ、指導力を磨く。 ・心身の健康保ち、よき指導者、よき社会人として児童と接する。 ・児童にとって「分かる授業」「楽しい授業」を目指し指導力を向上する。 ・特別支援教育に関する知見を広げ、児童を肯定的多面的に理解し支援する。	○ワークライフバランスの視点から、優先順位を意識して職にあたる。 ○互いに声を掛け合い教職員による服務事故を未然に防ぐ。 ○研究・研修活動を一層活性化する。 ○ICT活用技能と授業での効果的活用を研鑽する。 ○OSCや心理士等の関係機関との連携を図る。
		組織力の向上	◎教職員一人一人が持ち味を発揮し、協力しながら教育活動を展開する。 ・「報告」「連絡」「相談」を基本とした教職員間のコミュニケーションがとれた職場をつくる。 ・「子供のために」で協力し合える教職員のチーム力(同僚性)を高める。	○児童に関わる情報の共有に努め、教育活動の活性化、指導の充実に活用する。 ○学年・専科、支援員等のチームによる迅速・誠実・的確な問題解決を行う。 ○外部関係機関との連携に努め、児童理解と指導の充実に努める。
	家庭・地域	理解・連携の強化	◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	○保護者とともに児童の安全・安心に関わる指導を再考し充実させる。 ○保護者・地域と学校が協力し、150周年の思い出をつくる。 ○学校からの便り・HP等を活用し、教育活動のPRを積極的に行う。 ○学校公開及び保護者会等の立案・実施を丁寧に行う。 ○外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。